

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0906
東京都八王子市北野町575-22
並木 真 TEL: 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2024年7月

The Service Club of The YMCA

第349号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	並木 真	国際会長 A シャナヴァスカーン (インド) 主題「より良い世界のために、共に」
副会長	久保田 貞視	スローガン「立ち上がろう、そして輝こう」
書記	小口 多津子	アジア太平洋地域会長 ジョウン・ウォン (台湾) 主題「大きなインパクトを起こそう」
会計	長谷川あや子	スローガン「大胆に、信念を持って奉仕しよう」
直前会長	花輪 宗命	東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題「ワイズの方向性を見極める」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「ユースエンパワーメントをYMCAと共に」
ブリテン	山本英次 大久保重子	あずさ部部长 ピーター・マウントフォード (甲府) 主題「めあて 望み」
		八王子クラブ会長 並木 真 主題「協働と共感」

2024年7月例会プログラム

(キックオフ例会)

担当班A班(佐藤、長谷川、稲葉、小口)

日時:2024年7月13日(土) 18:00~20:00

会場:八王子市北野事務所2F 大会議室

*受付:稲葉 *司会:小口

- ・開会点鐘 並木(真)会長
- ・ワイズソング 一同
- ・ワイズの信条 一同
- ・今年度の会長の主題・抱負 並木(真)会長
- ・ゲスト・ビジターの紹介 並木(真)会長
- ・卓話者の紹介 花輪
- ・聖書朗読と感謝の祈り 佐藤
- ・卓話「子ども食堂カフェ北野」と「日本ガラパゴスの会」
- お話 奥野玉紀さま「子ども食堂カフェ北野」共同代表者
NPO 法人「日本ガラパゴス会」代表
- ・スマイル 長谷川
- ・報告 並木(真)会長・各委員
- ・「パレスチナ問題上映会」 立ち上げ人・宮内蒼也さん
- ・ハッピーバースデー(花輪宗命さん、稲葉恵子さん)
- ・閉会点鐘 並木(真)会長

巻 頭 言

「協働と共感」

2024-2025年度キックオフに向けて

会長 並木 真

さあ、新しい年度の始まりです！
今年度も会長を務めさせていただきます、並木真です。
どうぞ、よろしく申し上げます。



今年度の会長主題は「協働と共感」にさせていただきました。昨年度、新型コロナの第5類に移行したことで、リアルな活動が戻ってきました。昨年度は、例月の例会をはじめ、募金活動、チャリティーコンサート、ゴミ拾い、わくわくピレッジでの草刈り&新歓 BBQ など、中央大学ひつじくものメンバーとともに経験することが出来ました。ぜひ、今年度もひつじくもとともに協働し、同じ経験を共有できたらと思っています。

ひつじくもはユースアクションで、「外国人居住者の方

今月の聖句(2024年7月)

ご存じの通り、私はこの手で、私の必要のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように労苦して弱い者を助けるように、また、主イエスご自身が「受けるよりは与えるほうが幸いである」と言われた言葉を思い出すように、私はいつも身をもって示してきました。

(新約聖書・使徒言行録 20:34~35)

たちとの交流」プログラムを埼玉県川口市で行います。このプログラムへのサポートや出来れば参加させてもらい、私達も新しい学びを得られたらと思っています。

今年は、クラブ設立 30 周年！今年を迎えることが出来たのも、チャーター以来メンバーそれぞれが交流を楽しみ、知恵を出し合いながら、活動をすすめてこられた証だと思っています。これからも様々な世代が所属・交流出来るクラブであり続けられるように、みなさまクラブライフを楽しみましょう。

十勝大会特集

第 27 回東日本区大会参加報告

会長 並木 真

6 月 1 日(土)北海道帯広市「とかちプラザ」での「第 27 回東日本区大会」に参加しました。総勢 320 名の参加者で、久しぶりの方々でとても賑やかに開催前から盛り上がっていました。



八王子クラブからは、久保田ご夫妻、長谷川さん、小口さん、稲葉さん、佐藤さん、菅野さん、私の 8 名の参加です。西日本区からは、なんと 64 名の方々が参加されていました。やっぱり北海道の魅力はすごいですね。

午前中に、代議員会、担当主事会、ユースの集いに分かれて分科会がありました。私の参加した代議員会では、2023-24 年度の決算報告、次期、次々期理事選出について、2024-25 年度予算案などについて審議されました。クラブの減少、会員の減少に伴い、厳くなる財政へ積極的な対策を求める意見も出されました。

昼食後、いよいよオープニングセレモニーが始まり、帯広大谷高校マーチングの素晴らしい演奏、とかち帯広 YMCA 幼稚園児によるかわいくトリミクダンスのあと、バナーセレモニーが行われました。やはり居並ぶ数々のバナーを見ていると、ワイズメンズクラブの歴史と広がりを感じました。

東日本区アワー I では、山田理事からの報告の後の、札幌 YMCA はるリーダーと若いスタッフの方からの YLVF の感想とユースアクション「グッドドライブ」の発表は、はるリーダーがとても堂々とはつらつと発表されていました。



記念講演会は、「食べることはいきること」南極料理人西村淳さんの講演でしたが、私は私の「食べることはいきること」の命題で、十勝必食課題の「豚丼」の探求に勤しみ、とても感銘を受けて会場に戻りました。食したお店に「歓迎 第 27 回東日本区大

会」の札が張られていたのはびっくりでした。

東日本区アワー II では、事業主任からの報告とそれぞれ貢献したクラブへの表彰がありました。八王子クラブは、7 つの賞を頂きました。

お待ちかねの大晩餐会は場所を「ホテル日航ノースランド帯広」に移動して行われました。テーブルに運んで下さる洋食以外に、名産アスパラガスの料理、豚丼、インデアンカレーなどビュッフェ形式で用意され長蛇の列でした。会場で披露された「よさこいソーラン乱舞 Exclamation」はみんな一緒に踊り、会場が一つになっていました。

今回は、1 日というコンパクトな大会でしたが、とても濃い内容の大会だったと思います。ご準備下さった十勝クラブの皆様、良い時間を本当にありがとうございました！

出会い、より深く、より豊かに

長谷川あや子

1998 年、東京 TFT ホールで行われた第 1 回東日本区大会から始まり 2024 年、第 27 回大会まですべて参加できたことに感慨を覚えます。どの年も鮮明に思い出されますが、クラブ会長として初めて参加したのは 2004 年の熱



海ニューフジヤホテルでの大会でした。クラブバナーを抱えて新幹線に乗りました。大会が終わってから奈良さんや橋本さんたちと MOA 美術館にも行きました。

15 年前の 2009 年、第 12 回は今年と同じ十勝大会でした。役員引継ぎ式では次期書記として十河弘書記からバトンを引き継ぎました。今もありありと思い出されます。そして 2010 年はまだ設立 7 年の若い富士五湖クラブのホストによってハイランドリゾートホテルで行われました。「燃えろよ燃えろワイズよ燃えろ」の歌声が今も耳に響きます。私は書記として司会を仰せつかり、緊張の二日間で

したがおかげがえのない経験をさせて頂きました。

今年の大会で嬉しかったことは、西日本区八代クラブの森律子さんにお会いできたことです。初めてお会いしたのは2018年、沼津での大会でした。朝食をとるためにレストランに行ったところ、普段お見かけしない方がいらしたのでお声をかけたら西日本区の方でした。しかもお一人で参加とのこと。以前にも東日本区大会に参加して楽しかったからというお話でしたが、その軽やかな行動力に感心いたしました。私より何歳かお若い方でしたが話が弾んだのを覚えています。その後、2019年7月のアジア太平洋地域大会でお会いし、お互いに手を振ってご挨拶というもありました。2021～22年度、彼女は九州部の部長、同時期私はあずさ部の部長でしたが、心の中でエールを送っていました。そして今年、とかちプラザでバツ



リ会って本当に嬉しかったです。帰宅後、メールしましたらすぐお返事を頂きました。こんなめぐり合わせもワイズならではの喜びだとしみじみ感じているところ

です。この次お会いできるのは宇都宮での大会になりますが、今からとても楽しみです。一年に一度しか会えない方もまるで昨日も会ったような親しさを感じて笑顔がこぼれる…それがワイズの大会です。

思い出写真+勝での大会

小口多津子

5月31日大会前日の夕方、帯広空港に着きました。昨年7月入会の稲葉恵子さんと一緒でした、北海道は是非にと、東日本区大会に登録された意欲満々なワイズメンです。



思えば、私は今回が3回目の十勝での大会でした。やはり1回目の1999年の時は、私も入会して半年目の参加でした。この時は、アジア地域大会でした。アジア会長になられたのは、八王子クラブから輩出の奈良昭彦さ

ん、そのときの会場は幕別町百年記念ホール。その就任式に八王子クラブからは16名の出席でした(ブリテンより)。この大会で忘れられないことは、当時ユース事業のSTEP生として、メンバーの茂木稔さん宅にホームステイをされていた、フィリピンから来られたお二人の女性、イベットさんともう一人の女性が、この十勝大会のユースコンボケーションに参加だったことです。エクスカージョンでお二人とバスに乗り込み、この日は一緒に行動し、阿寒湖の船にも乗りました。目のきれいな、ふくよかなイベットさん、母国では看護婦さんだったと聞いていました。今はどうされておられるでしょうか。お顔を今で思い出せるほど懐かしいです。エクスカージョンの帰りに、おみやげ店で買われた小さな熊のキーホルダーを私に下さいました。またこの1999年十勝でのアジア大会が、DBCのお相手、大阪セントラルクラブのメンバーとの初顔合わせの会合となりました。お部屋を借りて、机を挟んで向き合いお互いに自己紹介をして、今後のことを話し合いました。話しているうちに、お互いのクラブの中身が似たもの同志であることも分かって、「初めまして…」でないような、雰囲気にも包まれたのを覚えています。これまでもお互い大阪と東京を行き来した旅行や会合は、数知れません。

その大阪セントラルクラブも2018年6月には、少人数になってしまった理由で解散してしまいました。その解散式で今でも忘れられない言葉があります。その式の挨拶の中で、大阪セントラルクラブ入江保夫会長が言われた「ワイズのクラブを作るのは簡単だった、仲間になる人が見る見るうちに集まってきた、でも、解散するということ、こんなにも苦しいこととは思ってもみなかった」の一言でした。

出合いがあつて、別れがある。人があつてこそそのワイズメンズクラブは本当に沢山のことを、いつも考えさせられるものです。広大な北海道、畑の向こうの地平線、森林、いつ来ても十勝はこれら全ての思い出を豊に包んでくれていました。



開会式にて

東日本区大会に参加して

稲葉恵子

今回の東日本区大会に東京八王子ワイズメンズクラブの優しい先輩方々と参加して十勝をたっぷりと楽しませて頂きました。

帯広空港に着陸する前、空から見た景色は酪農地帯の広大な大地が広がっていました。

空港から帯広駅に向かうバスからの景色も緑鮮やかな小麦畑が延々と田園地帯が広がり遠くには日高山脈が見え忘れられない景色となりました。

大会当日は開会式オープニングセレモニーの帯広大谷高校生によるマーチングバンドから、十勝帯広YMCA幼稚園生によるリミックダンスの可愛らしさに会場は和やかな雰囲気の中、始まりました。

新入会員の私にとってこの一年はなんでも新しい経験でしたが、バナーセレモニーはそれぞれのクラブの歴史の重みを感じられるとても印象深いものでした。

特に、我がクラブ並木会長の若々しい力強さに誇りと未来を感じました。

理事、ユース、代議員、YMCAの一年間の報告のその中で札幌ユースリーダーの北大生の「人と出会うことでしか自己を見つめ成長させることはできない」という言葉が心に残りました。また、貰う相手にも心の負担をかけない「グッツドライブ」(無償での物々交換)運動の提案もされていました。若い方もいろいろ深く考えていることに感動しました。

この一年、ワイズに入って素晴らしい方々にお会いして、この一年で変わった自分があります。

この東日本区大会でも十勝ワイズメンズクラブの方々の心あふれるおもてなしを受けて、いろいろな事を学びました。

心から尊敬できる素晴らしい先輩方の背中をワイズの一員として追い続けます。



第27回東日本区大会に出席して —兼ひがし北海道旅行記—

久保田貞視

2024年6月1日(土)北海道帯広市のとちかちプラザで第27回東日本区大会が開催されたのでメネットと共に参加した。

1. 東日本区大会

当日は午前10時から始まるが受付は午前9時からと早いので前日に帯広に泊まり、6月1日午前9時にとちかちプラザに行き登録した。メネットアワーは9時15分にバスで真鍋庭園に行き、自分は10時からの代議員会にオブザーバーとして出席した。昼食をはさみ、12:30よりオープニングセレモニー、続いてバナーセレモニーとなった。



開会式は山田公平理事の開会点鐘で始まり、来賓では帯広市長、日本YMCA総主事、アジア太平洋地

域会長及び西日本区理事が挨拶をされた。

記念講演会は南極料理人の西村淳氏による「食へることは生きること」と題しての講演で、南極探検隊と行動をともにしながら彼らの食事について隊員の健康に配慮しながら料理を作り続け、隊員との一体感を持つよう努めたとのこと。

いよいよ東日本区アワー。いつもの通り種々の表彰があり、今回は表彰されるクラブ・ワイズは前もって壇上に座り、順番に理事よりの表彰を受ける形がとられた。ユースでは当クラブの中大生ひつじくもとの緊密な交流は正に理事のモットーであるユースエンパワーメントを実践しているのに表彰の対象とならないことに寂しさを感じた。

奈良伝賞には、東京西クラブの吉田明弘ワイズと十勝クラブの池田正勝ワイズが受賞された。

晩餐会は会場をホテル日航ノースランドに移し開催。歓迎挨拶は幕別町長の挨拶、祝宴は北海道観光大使の平島賢治氏の歌謡ショーを聴きながらの豪華デナー。山田ワイズの農場で採れたアスパラも食べ放題で参加者は大満足。アッパーは翌年の熊本でのアジア太平洋地域大会、東西日本区大会と各クラブ紹介の後、よさこいソーラン乱舞で閉会となった。今回は一日だけの大会であったが凝縮された中身の濃い大会でした。参加者は西日本区からの参加者も含め 341 人と多数で盛大な大会でした。

2. ひがし北海道旅

5月31日(金)一帯広に午後早く着いたのでホテルのロビーで会った千葉クラブの青木清子ワイズと一緒にバスでおびひろ動物園に行き、植村直己記念館「の家」に入るとマッキンレー山に単独登頂に成功したが遭難し、ベースキャンプに残された犬糧やゆかりの品が展示されていた。その後、近くにある道立帯広美術館で星野道夫氏の写真展を見学した。二人ともアラスカを主に多くの写真も撮っているが、自分もかつて北米滞在中にアラスカに出張したこともありアラスカ好みの二人の心情が理解できた。

6月2日(日)ワイズの早朝礼拝を失礼して列車で根室へ。釧路で乗り換え1車両の花巻線に乗り2時間強で根室駅に着き、近くのバス停より納沙布岬行のバスに乗る。乗客は私たち2人だけ。歴史のある納沙布灯台を回り、近くの納沙布岬から太平洋とオホーツク海を分けているがその目の先に北方4島の歯舞群島がゆすかに眺望できた。ロシアがソ連時代に我が国が太平洋戦争で敗戦して降伏した直後に卑怯にもソ連が北方領土を占拠し未だに変換されていない。



北方4島返還交渉は1956年10月に鳩山一郎首相とソ連のブルガーリン議長との間で歯舞群島と色丹島を日本に返還する合意が得られ、平和条約締結後に履行すると日ソ共同宣言が発表されたが、2島返還で平和条約を締結しなかったためそのままとなり、特にプーチン大統領になってから一向に進展しない状況である。根室駅に戻り、オホーツク海に面した元の根室漁協まで歩き夕日を眺めた後ホテルへ。

翌日はバスで花咲灯台と車石に。車石は白亜紀約1億年前に地下深くよりマグマが上昇し、海中に流れ出た溶岩が急に冷え固まったところからあふれ出ようとする溶岩に押されて丸くなった車軸状の玄武岩で枕状溶岩と言い直径6mの巨大な岩石で天然記念物となっている。バスでの帰路、オホーツク海に突き出ている高田屋嘉兵衛が建立し、根室の大社となっている金刀比羅神社に参拝。午後2時、根室を後にし、釧路へ。ホテルに

チェックイン後、釧路市内を散策し、幣舞橋でオホーツク海を展望する。夕食は高尾山仲間の釧路出身者が推薦してくれた「絹」で新鮮な魚や花咲ガニをいただいた。翌日はのろっこ列車に乗り、釧路湿原に。釧路からはバスで釧路空港に行き、20時に羽田に。

帰宅後、20年前に下田に旅して立寄った下田クラブの故池谷淳氏(元下田市長で全国北方領土返還会議の団長)から頂いた著書「人去留影」の根室・釧路旅行の部分を興味深く再読した。彼は1855年日露和親条約が締結された下田市の市長を永くやり、北方領土返還運動にも携わっていた。

+勝帯広大会に参加して

久保田佐和子

6月1日(土) JR 帯広駅すぐ前のビルで「東日本区帯広大会」が開催されました。

前日から滞在していた私は9:15am 集合で「メネットアワー・真鍋庭園」のツアーに参加しました。メネットのみならず女性メンの方々も参加でマイクロバスの中は満杯。お世話係の池田メネットのご説明を聞いているうちにはや真鍋庭園に到着しました。

説明によれば、真鍋庭園は明治28年香川県から北海道開拓で来られたのがご先祖で現在は5世代が運営されています。北海道の原野を開発し、保存、そして発展のために皆さんに公開されておられます。

園内は広大な敷地でその広さは25,000坪ですが、アップダウンは殆どなく誰もが気軽に散策できるようになっています。大正天皇が皇太子の時休憩されたという真正閣がある日本庭園、西洋風庭園、風景式庭園で構成されていて数千種の木々の中、現在は春と夏の端境期なのでお花は少なかったですが、いろいろな緑の色の中を歩くのはとてもリフレッシュされました。モンスターガーデンとあり、何?でしたが、枝垂れの木々が象、麒麟、モンスターなどを形作っていました。

散策の後は庭園の一角にあるレストランで、盛り付けのかわいなお料理・半円のご飯をローストビーフがカバー。池田メネットの手作りのレーズンパンもいただきました。身も心も大満足！十勝クラブのメネットさんの心づくしの

おもてなしに感謝
感謝でした。



第89回「神田川船の旅」に参加して

花輪宗命

去る6月8日(土)、八王子クラブのメンバー10名(並木会長、久保田メン、長谷川、小口、山本ブリテン編集長、稲葉、大久保、佐藤、菅野、花輪)と中央大学ひつじくも5名(折原美結、石原島伶名、高橋佑太、古川陽菜、藤原勇介)は、東京グリーンクラブの著名なCS事業である「神田川船の旅」に参加し、忘れがたい素晴らしい体験をさせて頂きました。

八王子クラブでは、かつて、グリーンクラブの樋口会長に「神田川船の旅」の事業に関して卓話をお願いしました。その折のお話に感動した八王子クラブのメンバーが、その場で「次回の『神田川船の旅』にはぜひ参加したい」と申し入れたところ、樋口会長からは、「大歓迎します」とのお応えに加えて、何と「ひつじくもの学生さんも招待しますよ」との大変有難いお言葉を頂きました。今回の「神田川船の旅」は、樋口会長が、その時の約束をしっかりと覚えて頂いたことにより実現したものです。

当日は、梅雨入り宣言の後にも拘わらず、絶好の好天に恵まれ、今まで経験したことのない驚き満載の深い学びの旅に、一堂大いに感銘を受けました。

船の旅の前半は、浅草橋近くの船宿から神田川を遡り、秋葉原、御茶ノ水、水道橋を経て、小石川橋から日本橋川に入り、皇居脇を通り、江戸・東京の中心である日本橋界隈を通過して隅田川に至るクルーズで、この部分は、樋口会長自らの深淵な名解説に導かれて、江戸時代から現代に至る東京の成り立ちと発展の軌跡を、これまで見たことのない角度(川面)から学び、満喫することができました。

船の旅の後半は、隅田川を遡り、新大橋の手前から小名木川に入り、扇橋閘門で、「水も滴る良い」経験をしながら、私たちのまち(東京)の将来を地球環境問題との関連から学び、考える良い機会を得ました。

中大Yのひつじくもの若者たちにとどまらず、八王子クラブのワイズメンズにも、このような素晴らしい経験をさせて頂きくださった樋口会長をはじめ東京グリーンクラブに皆さんに、心から感謝申し上げます。



神田川船の会感想

ひつじくも参加者 5名より投稿を頂きました

*古川陽菜

集合場所の三浦屋にて、八王子メンズクラブの方からすぐに声をかけて頂き、多く活動に参加しているわけではないですが、顔を覚えて頂いていることに、とても嬉しく思いました。乗車前の待ち時間、クラブの方々とはほんの少しですが会話をしました。日中は夏らしい、少し暑すぎる快晴でしたが、水の近くだからか、船の上はとても気持ちのいい風が吹いていました。一番印象に



残ったのは日本橋で、橋の下を通過した時に目にした関東大震災の焼け跡、装飾の豪華さに圧倒されました。神田川船の会

様、そしていつもお世話になっている八王子メンズクラブのみなさん、素晴らしい体験を提供して頂きありがとうございました。

*石原島伶名

神田川船の会に参加したのは初めてでしたが、川下りという貴重な経験を天気の良い中させていただけで、とても楽しい思い出となりました。また、川を下りながら見える景色や感じる風はとて心地よく、夏の始まりを感じることができました。加えてガイドの方の丁寧な説明によって、経路中にある地域の歴史や建物について学ぶことができ、とても有意義な時間だったと感じています。特に水門の下を通ったことは印象的であり、本川の水位を管理し支川への逆流を防ぐという水門の役割を、肌で感じることができました。その他には、船でのゴミの運搬の様子がとても印象に残っています。このことから、現代においても、昔の人々の知識や伝統が生きているのだというのを改めて感じました。

*高橋佑太

YMCAの方々との交流は非常に有意義で興味深いものでした。この会を通じて神田川やその流域の歴史について学ぶことができとても良い経験となりました。また当時、現在よりも水質が悪化していた神田川をこの会を通じて見てもらう事で当事者意識を持って貰うという創立当初の目的を知り、地元を良くしていくという姿勢とそれを今日まで受け継いできた人達の、社会貢献の意識や地域への深い愛情に感銘を受けました。彼らは協力しながら、地域社会を支え、活性化させている姿勢がありました。この経験を通じて、単なる個人の成長だけでなく、社会貢献や共同体の重要性についても考える機会となりました。

将来的にも、このような貴重な経験を積み重ね、地域社会への貢献をさらに深めていきたいと思っています。

*** 藤原湧介**

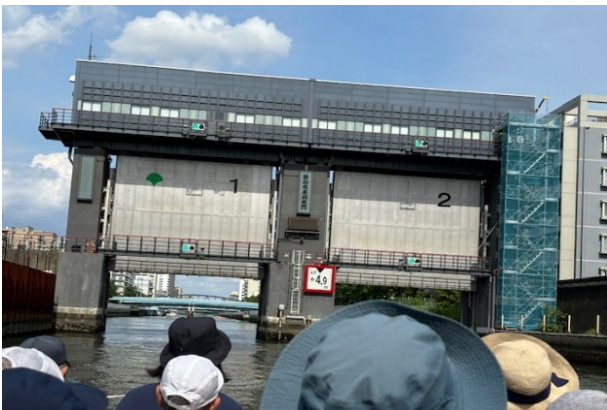
神田川に架かる橋をくぐり橋の歴史、付近の建物を学べて良い経験になりました。橋と川は昔から変わらないのに、川の上に高速道路が通っている風景は時代の流れを実感しました。昔



からある橋と護岸の中で特に印象的だったのが、江戸時代に積まれた石垣がそのまま残っていたことです。江戸時代の藩が残したしるしなどが今も残っていてとても驚きました。また多くの橋を通ったが、全ての橋がそれぞれ違って、特徴があり、見ていて・下から通って飽きず楽しんで面白い経験になって良かったです。

*** 折原美結**

今まで船に乗る機会がほとんどなかったので、今回の船旅をとても楽しみにしていました。当日は天気にも恵まれ、ゆったりとした時間を過ごすことが出来ました。今回の船旅で通った場所は地上では何度も通ったことのある見慣れた場所であるにも関わらず、船から見上げた景色は全く別の物のように思えました。特に地下鉄の下を通過して、下から電車を見るという機会はおほとんどないので面白かったです。また、水門と水門の間で、水深が数分で1m60cm下がっていくという経験をし、自分と同じくらいの高さが下がっていく速さに驚きました。2時間という短い時間でしたが、街の歴史や街並みなど多くのことを学べ、貴重な体験となりました。



ひつじぐも便り

久しぶりの児童館活動

総合政策学部3年 折原美結

こんにちは。副委員長兼ワイズ係を務めます、中央大学総合政策学部3年の折原美結です。先日、久しぶりに児童館活動に参加したので、その話をしたいと思います。

5月25日、私は日野市にある、みさわ児童館での児童館活動に参加しました。2年前、私が1年生だった時以来参加してなかったので、とても懐かしい気持ちになりました。最初ボッチボールや鬼ごっこをしていましたが、小学生のような体力はなく、30分経つととても疲れました。次に、お母さんと小学生のお姉ちゃんと一緒に来た幼稚園生の女の子と一緒にドミノや塗り絵をしました。最初は恥ずかしがっていましたが、沢山話しかけていると幼稚園での出来事やお姉ちゃんの話をしてくれました。また、小学生の女の子からは最近小学校で流行っているお菓子を教えてもらいました。小学生はスマートフォンを使ったゲームなどをしている人が多く、驚きました。10年前、私が小学生だった時とは流行も遊びも異なり、流行が分からないこと、知らないことに自分が置いていかれている寂しさを感じました。最後には最初恥ずかしがっていた幼稚園生の女の子と一緒に遊んだ小学生がもう帰ってしまうのか、と名残惜しそうにして、手を振っているのを見て、来てよかったなど感じました。

今回の児童館の活動に参加したのは3人で、私以外の2人はよく児童館の活動に参加しているそうです。ひつじぐものどの活動も参加するメンバーがある程度同じになってきていて、最初に参加した活動でどれだけ参加者に楽しいと思ってもらえるか、どれだけ気の合いそうな友達を作れるかが、活動への参加率に大きく関わっているのではないかと感じています。1年間の間に、ひつじぐもの活動を楽しみながら繰り返し参加してくれる学生もいれば、1回も活動に参加しない学生もいます。その差は活動に対して積極的に楽しもうと出来るか、友達を作りたいと思えるかどうかであり、そのように思えば、どんな活動も楽しく、繰り返し来たい活動内容だと思っています。今年新しく入ってきた2年生や1年生には、一度色々な活動に参加してみてその楽しさを味わってほしいと思います。人によってひつじぐもの活動への優先度は異なりますが、折角ひつじぐもを選んで入ってくれたのだから、少しこの活動は面白い、楽しいという発見があると嬉しいなと思います。そのような活動にできるように私も精いっぱい尽力したいです。

わくわくビレッジ便り

館長:菅野牧夫

梅雨とは思えないような暑い日が続いています。わくわくビレッジは体育館に冷房が入っていないため、夏場の利用は苦しいものがあります。

6月の末に来年度の予約を受けていよいよという許可がやっと東京都から出ました。1年分の予約を止めていたので、先が思いやられます。ちなみに昨年度の予約団体数は1400団体強ありました。その中で学校団体が300団体ほどあります。通常は電話での先着順で予約を受けていますが、今回は事前に申し込みをして抽選で予約を取るようになります。9月から予約の確定をしてまいります。3か月で1400団体の予約を一気に受けたいきます。ホームページで予約の方法をアナウンスしていますが、すでに間違えて予約の申し込みを送ってくる方たちがたくさん出ています。スムーズに予約が完了するか不安が強いと思います。

さて、前からお話をしていたプログラムスタッフの補充ですが、外国籍のスタッフのビザ申請が通り、6月からやっと働くことができるようになりました。自己紹介文を作ってもらいました。よろしく願います。

新人の紹介

初めまして、**黄梦婷(こう むてい)**と申します。

中国浙江省から来ました。

今までは、名古屋大学で環境教育の研究をしてきました。理論の勉強が多かったので、去年は環境教育の実践を求め、清里にあるキープ協会で長期インターンをしてきました。これから「高尾の森わくわくビレッジ」のような社会教育の現場で、指導者として体験プログラムを行えるようになることは思ってもいませんでした。

最近、仕事の中で自分の日本語の足りなさを非常に感じましたので、丁寧な指導を提供できるように日本語をもっと頑張っていきたいです。

わくわくビレッジにお越しの際には是非お話をしてください。

キャンプファイヤーの季節です



東京YMCA 近況報告

担当主事 菅野牧夫

1. 内閣府から日本YMCA同盟が要請を受けて実施した石川県輪島市町野町の避難所運営支援は、6月末で終了した。1月24日～3月末までは東京YMCAがスタッフを派遣し、その後は富山YMCAを中心に全国YMCAが協力して支援活動を行った。また6月21日～23日には、東京YMCAから職員1名、社会体育・保育専門学校生2名、山手学舎生1名が現地に派遣され、避難所の受付や清掃他、避難所の支援活動に従事した。
2. 水上安全教育の一環として今年も6月に「ウォーターセーフティーデー」を一斉に実施した。東京YMCAでは東陽町センターと山手センターで6月16日に、ウエルネスガーデン品川御殿山では6月30日に、幼児・小学生の親子を対象に、着衣泳体験や心肺蘇生法を学ぶプログラムを開催した。また水上安全の知識を子ども向けに紹介している「ウォーターセーフティーハンドブック」を近隣の小学校、幼稚園、保育園等に計約2万冊を無料配布した。
3. 6月14日から夏期キャンプ・スクールの申込受付を開始した。キャンプは9コースが設定され、多くのキャンプが即日定員一杯となった。今回も「フレンドシップファンド」により、経済的に困難なご家庭には、キャンプやプールスクールの参加費を補助する。6月



22日から2か月にわたり、東京・フロストバレーYMCAパートナーシップのサマーキャンプスタッフとして、全国から募集したユース6名を派遣している。

4. 2030年をゴールとする3カ年計画(第1期:2025年度～2027年度)策定のために、「中期計画策定委員会」が設置され、7月から委員会がスタートする。上田晶平委員長他、ユース世代を含む会員と職員11名で委員会が構成された
5. 今後の主な行事予定
 - ・山中湖センター100周年記念お披露目会 7月6日～7日 (山中湖センター)
 - ・「第38回インターナショナル・チャリティーラン」9月28日 (都立木場公園)

今月の聖句によせて(2024年7月)

「世界人助け指数(World Giving Index)」を「チャリティーズ・エイド・ファンデーション(CAF)」というチャリティ機関が報告書にまとめて発表しています。世界の国や地域の「人助け度」をランク付けしたものです。



市場調査会社ギャラップ社が、世界の国や地域の人々にインタビューして実施するもので、内容は、この

一か月間に「見知らぬ人、あるいは助けを必要としている見知らぬ人を助けたか」、「寄付をしたか」、「ボランティアをしたか」の3項目です。

2023年の報告書で、日本の「人助け度」は142カ国中の139位、アジアで最低でした。2020年は114カ国中の114位で最下位でした。他の年でも大差はありません。この結果をどのように見、どのように感ずるかは、国や地域による文化的背景、社会の仕組みなどが異なるため、一概に言い切ることはできません。

しかし、この結果についてある政治学者は、戦後民主主義のあだ花としての現象ではないか、と論じています。「自立した個人として自分の意思で選択し、選択したことについては責任が伴う」と、近代的な人間観を獲得するよう、戦後民主主義は繰り返し教えてきました。その結果、自己責任論が声高に語られ、神様や仏様のような、「私」を超越するような視座が希薄になりました。自分の在り方を自分がすべて意思的に選択し、その結果はすべて自己責任だとするのは、人間の本質から外れています。それよりも、自分が今の自分であることの偶発性に目を向け、困難に直面しているその人であった可能性を想像する、「その人であった可能性」に自分を開く、そんな、利他につながる人間観のほうが、社会のためにも、自分のためにも意味がある、と。

利他はどのようなときに起動するのか。大切なのは、「与える時ではなく、ありがたいと受け取る時」ではないか、まずは、「受け取ることで生きていく」自分に気づくこと、自分が受け取る主体になること。私たちは、生まれた時からすでに多くのものを受け取っているのですから。そこからスイッチが入って、今月の聖句にある、パウロの、イエスご自身が語った言葉として話す「受けるよりは与える方が幸いである」、がすんなりといはってくるように思えます。

並木信一

八王子クラブ7月第1例会での卓話の演題

「子ども食堂カフェ北野」と「日本ガラパゴスの会」について

報告者：奥野玉紀様

報告者である奥野玉紀さんは、以下のプロフィールにある通り、八王子クラブの例会会場である八王子市役所北野事務所の近くで、2021年に「子ども食堂カフェ北野」を開設し、現在、その共同代表をつとめていますが、それまでの主な社会奉仕活動として、2005年にガラパゴス諸島の保全や交流を支援する特定非営利活動法人「日本ガラパゴスの会」を立ち上げ、各種研修や講演を行って来ています。

「子ども食堂」と「ガラパゴス諸島の保全と交流支援」という一見何のつながりもない社会貢献活動をしている女性が、八王子ワイズメンズクラブの身近なところで活躍しているのは、興味津々というほかはありません。

7月の八王子クラブのキックオフ例会では、その活動の内容と狙いについて詳しくお話を伺いたいと思います。

奥野玉紀さんのプロフィール

東京生まれ。1992年、高校生の異文化交流プログラムで南米エクアドルに1年留学。卒業旅行で行ったガラパゴス諸島に魅せられ、学生時代に度々訪れ、ガイドになる研修を受けた。また、学生時代には、留学団体に学生ボランティアとして活動した。

その後、結婚を経て、2005年ガラパゴス諸島の保全や交流を支援するNPOを立ち上げ、現在まで支援を続けるとともに、学校や教員研修などでガラパゴス諸島の生態系や社会における持続可能な発展に関する講義を毎月行っている。

2021年「子ども食堂カフェ北野」を開設し、同年7月、朝ごはん事業を開始し、現在「子ども食堂カフェ北野」の共同代表を務めている。昨年度、子ども食堂の利用者は年間18000人を超えて、「地域で子どもを育てる」仕組みを作り続けている。

八王子市多文化共生推進評議員、学校運営協議会委員・学校コーディネーター、私立学校非常勤講師。4姉妹の母。

7月お誕生の方

花輪 宗命さん 7月8日

稲葉 恵子さん 7月24日

2024年6月第二例会・報告 書記・小口

日時：2024年6月22日(土) 18:00-20:00

会場：北野事務所2F

出席者：長谷川、菅野、佐藤、小口、久保田、並木(真)、望月、山本、並木(信) 9名

報告事項

① 在京ワイズ会長会/5月25日(土) 10:00~11:30 東京YMCA山手センター、会長10名出席。

並木真会長・・今期で3クラブの解散があった(世田谷、東京ベイサイド、茨木)が、それぞれ解散後はYMCAとの繋がりを持って、何かを進めて行くという話であったが、今どのクラブも考えられるのはYMCAとの繋がりをしっかり続けていけば、ある意味解散にまで至らないのではと思った。次年度在京ワイズ会長、小原史奈子メン(東京たんぽぽ)

2024年度在京ワイズ新年会は：2025年1月11日(土) ホスト・東京西クラブ、会場：東京YMCA 東陽町センター。

② 東日本区大会/6月1~2日、ホスト十勝クラブ、協力は北見クラブ、札幌クラブ
会場：とかちプラザ(帯広市) 参加者数、321名(海外、西日本区を含めて)

クラブから8名出席。

分科会、(イ) 代議員会(質問応答)・理事や役員が多くが2年継続となることの意味と理事の答え。

・予算にあるサポート募金120万円への意見、等。代議員会出席は、並木(真) 会長、長谷川、久保田(それぞれの理事の答えは、理事通信6/15付けのワイズコム配信の中にあります)

(ロ) 担当主事会、菅野担当主事出席

(ハ) ユース委員会、7名の出席者と札幌YMCAスタッフ、リーダーの2名。昨年のYVLFの事。今後のワイズとユースの関係など。出席小口。

☆1日の表彰式にてワイズメン・ゴールドメンバー賞(ワイズメン50年)に、東京八王子クラブ 並木信一さんが表彰されました。バッジの授与。ちなみに、今年はワイズ50年歴の方は21名。

☆クラブが頂いた達成賞は・地域奉仕・YMCA サービス事業、CS、国際交流、BF 献金 国際交流TOF、RBM 献金、YIA 推進、ユース活動支援献金。以上7項目の賞状。

・今年の最優秀クラブ賞は川越クラブでした。

③ 6月第1例会・6月8日(土)

第89回神田川船の会に参加。出席者(並木真、山本、長谷川、久保田、稲葉、佐藤、菅野、花輪、大久保、小口) ひつじぐも学生5名(古川陽菜、石原島怜名、高橋佑太、藤原湧介、折原美結)。樋口さんの解説が抜群だった、江戸の情緒も歴史も体験できた貴重な一日だった。

④ 2023-2024年度八王子クラブ会計決算報告、会計：長谷川

今後の予定

① 7月キックオフ例会(担当A班) 日時：7月13日(土) 6:00~ ②7月20日第二例会

② 8月直前会長感謝会(担当B班)
日時：8月10日(土) 4:30開始、八王子駅北口「北海道」ひつじぐも3名招待。
会費：メン-2,600円、メネット・ゲスト-3,600円

(クラブ以外の予定)

- ① 7月27日(土) 2024-2025 あずさ部第一回信濃の国評議会(ホスト松本) 1時~ 会費2000円
- ② 8月8日~11日ワイズ国際大会 タイ・チェンマイ
- ③ 9月6日~8日 YVLF(山中湖)
- ④ 9月28日(土) YMCAチャリティーラン(木場公園)
- ⑤ 11月5日~11日 IYC アラブ首長国連邦ドバイ ユース参加条件はこれまでと同じ。詳細後日。

クラブ創立30周年記念会

日時：2024年10月26日(土) am11~1400

会場：八王子エルシー4階「杉の間」座卓式

会費：8,000円

30周年記念誌発行、ソプラノとピアノの集い、記念会実行委員長、久保田貞視 以上

先月の例会ポイント(6月)

在籍	12名	切手	0g 計45g
メン	9名	現金	0円
メイキャップ	3名	累計	0円
出席率	100%	スマイル	0円
メネット	0名	累計	117,760円
ゲスト	0名	オークション	0円
ビジター	0名	累計	0円
ひつじぐも	5名		